

構成（研究領域）

造形芸術専攻からなる博士後期課程の教育課程は、修士課程までの教育課程を基礎としながらも、修士課程の美術専攻とデザイン専攻を統合的に再編し、専門の深化にも対応するものです。

造形芸術専攻は、作品制作、環境形成、および美術理論という相互に横断的な三つの研究領域を設定しています。これらの研究領域は、学生がいずれかの領域に属しながらも他の領域からの知識や刺激が絶えず得られるように、有機的に結びついています。

自らの専門を深めようとするとき、それが属する研究領域において制作や研究を深めていくのは勿論ですが、隣接する研究領域の制作や研究の成果はそのための教養の前提として作用する以上の役割を果たします。関連領域の研究成果や識見によって、隣接する領域と個々の制作・研究活動の差異性や独自性が、また隣接領域との関係により、それらと通底する本質的な課題が自覚されるからです。

三つの研究領域は、自律性をもちながら、それぞれが他の専門を極めるために役立つ領域と考えることができます。

（1）作品制作研究領域

自然の中の一存在である人間は生の普遍的な本質を探り表す手段として、さまざまな表現活動を行ってきました。物を創ること、自己のイメージを顕在化することは人間の本質的要求であり、作品は制作者自身の生の実感や強い欲求から生まれてきたといえます。ここでは、これらの表現への意欲や欲求をあらためて問い直すことで人間存在に関わる新たな世界観の創出を目指します。

この研究領域では、作品の制作を通して、美術表現における認識、価値観、表現方法、素材、技術、歴史など様々な問題を探究し普遍的で新たな表現の可能性を探ります。

制作手段としては、平面表現—絵画（日本画、油絵、版画等）立体表現（彫刻、立体造形）空間造形表現を深めるばかりでなく、他の研究領域との協同作業も視野に入れたプロジェクト計画、映像表現、インスタレーションなどの造形芸術分野、さらに多様なメディア表現を加えこれらの横断的で複合的な新たな表現領域の可能性も探ります。

（2）環境形成研究領域

現代社会における、ひと、もの、情報、それらからなる環境を対象としてその相互のよりよい関係を目指し、優れた技術と知見によって、環境形成を目指す研究領域です。

コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、クラフトデザイン、空間デザイン、建築、映像デザイン、情報デザイン、などの分野が含まれます。研究テーマとしては次のようなことが考えられます。さまざまな道具・空間・情報に関係するデザイン研究、さらに、道具・空間・情報の生産と使用における物質と人間のかかわりや環境課題を対象とする研究、人間の認知をはじめとする行動などの評価と行動に関する研究、環境形成作用と社会・経済構造の関係を見据えた環境設計システム（仕組み）のデザインと研究、これにはマネージメントや政策も含まれます。

（3）美術理論研究領域

造形芸術領域（美術、建築、デザイン、工芸、メディア・アートなど）に関する歴史研究および理論研究を行います。造形芸術に関する歴史的、理論的研究は、現在、それぞれの対象領域が拡大しており、また隣接する諸科学との協働も必然的なものとなっています。ここではアクチュアルな制作実践や社会との影響関係にかかわる課題の研究も行います。したがって、歴史的、理論的研究を狭い領域の専門性へと囲い込むことなく、開いていくことによって、造形芸術の意味をあらためて問い直します。

さらに、専門的な知識として学びとったものを前提としながらも、繰り返し新しい視点からの分析や解釈を実践し、研究のあり方や理論の更新をし、新たな創造の可能性を探索する。造形芸術領域の学術研究者のほか、制作をはじめとする造形教育や批評、美術館などの活動に寄与する人材を対象とします。

造形研究科 博士後期課程 / 単位表

〈造形芸術専攻〉

学年	1		2		3	
科目区分	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
必修	造形芸術特論	2	総合研究Ⅰ	2	総合研究Ⅱ	2
選択必修	作品制作研究Ⅰ	2	作品制作研究Ⅱ	2		
	環境形成研究Ⅰ	2	環境形成研究Ⅱ	2		
	美術理論研究Ⅰ	2	美術理論研究Ⅱ	2		

履修方法

学生は、入学すると「造形芸術特論」（2単位）を履修します。これは、造形芸術について横断的な視点から研究し、造形芸術の全領域に通底するより本質的な課題や、その時代的、社会的意義について検証するものです。

さらに、1、2年次の間に「作品制作研究Ⅰ・Ⅱ」、「環境形成研究Ⅰ・Ⅱ」、「美術理論研究Ⅰ・Ⅱ」の中から各学年2単位、2年間で4単位を選択し履修します。この履修についてはコーディネータが助言や支援を行い、必要があれば、他の研究領域の教員からの指導や支援を受けることもできます。

2、3年次では「総合研究Ⅰ・Ⅱ」（各学年2単位、2年間で4単位）を履修することによって制作・研究活動についてアカデミックな視点から指導を受けます。また、「総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、複数の教員により、博士論文の指導も受けることになります。以上、3年間に併せて10単位以上を修得します。